

第78番 郷照寺

●香川県綾歌郡宇多津町1435
☎0877-49-0710
●宿坊／なし

第79番 天皇寺

●香川県坂出市西庄町1713-2
☎0877-46-3508
●宿坊／なし



沿線の見どころ



宇多津 古街(co-machi)

室町幕府3代将軍足利義満を補佐した管領・細川頼之が居を構え、中世以降は港町、塩の町として繁栄した宇多津。町役場の南側一帯は「古街(こまち)」と呼ばれ、由緒ある神社仏閣や町家、洋館などが建ち並ぶノスタルジックエリア。界隈の道路はエリアの雰囲気に合わせて煉しレンガを使って整備されており、起伏もなく散策に適している。

所 香川県綾歌郡宇多津町
☎ 0877-49-8009 (宇多津町まちづくり課)



境内の見どころ



瀬戸大橋を望む風景

境内から一番間近に瀬戸大橋が眺められる霊場がここ。境内北側からは、吊り橋の南備讃瀬戸大橋がよく見え、天気の良い日には塩飽(しわく)諸島を見ることがもできる。この瀬戸大橋を望むポイントのほか、池の周囲に様々な樹木が植えられた庭園など、境内には記念撮影に最適なスポットが点在する。



境内の見どころ



庚申堂

民間信仰の「庚申信仰」を伝えるお堂で、本尊は6本の手を持つ青面金剛。庚申信仰は、人間の体の中にいる「三尸」という霊が庚申の夜、眠っている間に体から抜け出て天に昇り、天帝にその人の罪状を告げるというもの。そのため庚申の夜は人々が庚申堂に集まり、眠らず語り明かすという風習があった。



見どころの多い境内はゆっくりと散策したい

第78番

郷照寺

ぶっこうざん こうとくいん ごうしょうじ

瀬戸大橋を望む厄除けの寺

歴史・全体像

宇多津町の南、青ノ山のふもとの高台に建ち、境内からは臨海に広がる宇多津の町と瀬戸大橋を望む。奈良時代、行基が「道場寺」の名で開創した古刹で、後に弘法大師が42歳の時、自作の尊像を刻み、厄除けの誓願をしたことから「厄除けうたづ大師」として信仰を集めている。その後、時宗の開祖である一遍上人により中興され、室町時代には守護大名の庇護を得て栄えたが、長宗我部軍の兵火により伽藍を焼失。江戸時代に入り、高松藩主松平頼重により再興された。その際、宗派を真言宗とともに一遍上人を偲んで時宗も奉持することにした、四国霊場中、唯一の特別霊場となる。

境内

本堂は江戸初期に再興されたもので、二層になった屋根の形が特徴。これは東大寺など、奈良の寺院によく見られる奈良様式の造りで、霊場の中でも珍しい。

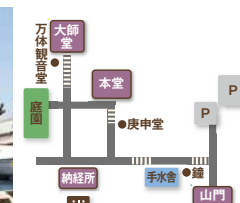
本堂脇の石段を上ったところ大師堂があり、厄除け祈願に訪れる人が絶えない。

参道脇には地下のお堂に信者が寄進した1万體以上の観音像を納めた万體観音堂がある。

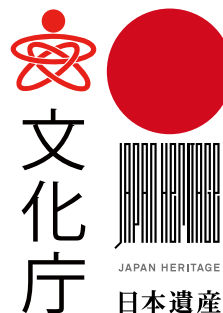
そのほか、県内では珍しい庚申堂や、女性の守り神である淡島明神堂、本坊の裏手にある池泉観賞式の庭園など、見どころも多く、宗派を越えて信仰を集めている寺院である。



本堂は二層屋根で霊場では珍しい奈良様式



御詠歌／踊りはね念仏申す道場寺
拍子をそろえ鉦を打つなり
本尊／阿彌陀如来
真言／おん あみりた ていせい から
うん
宗派／真言宗・時宗
開基／行基菩薩



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

ここをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成

歩き遍路のための「四国遍路」巡礼マップ

第78番 郷照寺

第79番 天皇寺



※赤い点線は遍路道の一例です

-

